2020 Vol.22 令和２年11月発行

久留米広域

消防だより

「オレンジ色」の誇り

救助隊

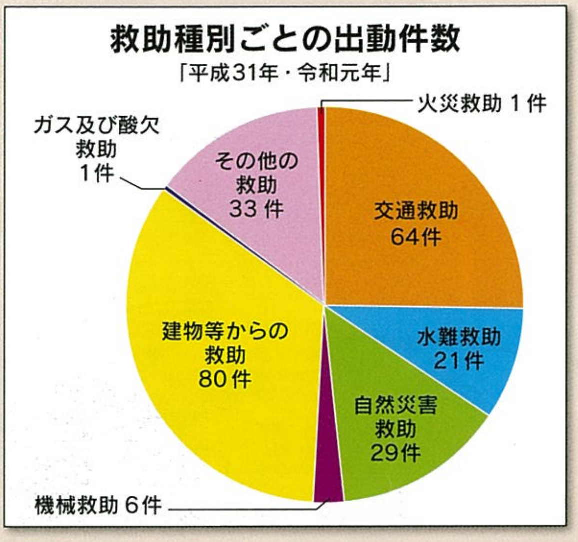
多岐にわたる救助要請

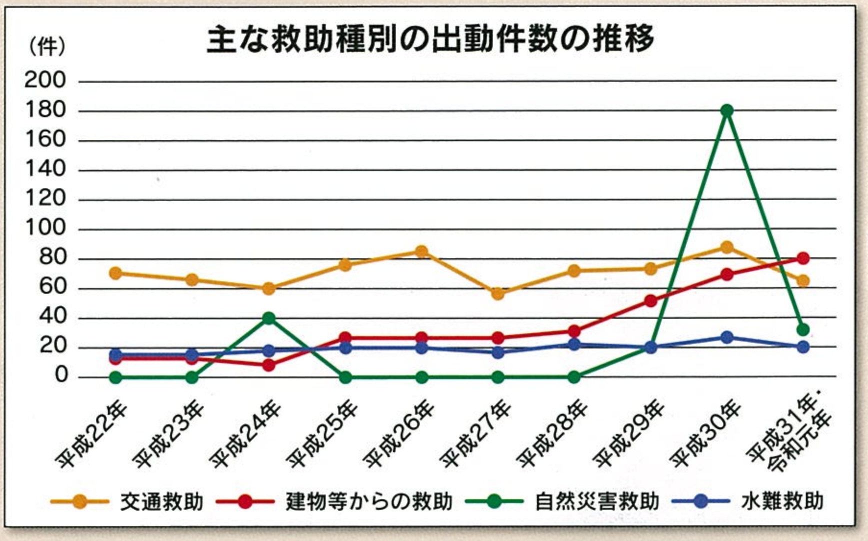
久留米広域消防本部管内（久留米市・大川市・小郡市・うきは市・大刀洗町・大木町）で「平成31年・令和元年」の1年間に発生した救助事案は235件で、1～2日に1件の頻度です。

最も多いのが「建物等からの救助」80件、次いで「交通救助」64件、「自然災害救助」29件となっています。

「建物等からの救助」では、建物内で病気で倒れ、助けに行った人が鍵がかかった建物内に入れず救助を求めるといった事例が多くを占めています。平成29年頃から増加傾向が続いており、背景としては単身世帯の増加が考えられます。（グラフ参照）

「自然災害救助」は、近年、当消防本部管内で毎年のように発生しています。自宅の周辺が冠水して避難できないといったものや、冠水した道路に車で進入してしまいエンジンが停止して避難できないなどの事例があります。





交通救助

交通事故発生時に

- ●横転した車両から脱出できない人
- ●車両のドアが開かず、外に出られない人
- ●車両が大きく破損し、運転席とハンドルに挟まれた人

などを救助する必要がある場合に対応します。油圧で大きな力を出すことができる器具などを使って救助します。

水難救助

水難事故発生時に、船の転覆や河川への転落などで溺れた人を救助します。

水面で溺れている場合は、浮力があるウエットスーツを着て迅速に救助に向かいます。

溺れた人が水中に沈んでしまった場合は、水中に潜るための器具を装備して捜し出し、救助します。

自然災害救助

自然災害発生時に、

- ●豪雨による土砂崩れに巻き込まれた人
- ●急な冠水により避難が困難となった人
- ●地震で倒壊した建物の下敷きになった人

などを救助する必要がある場合に対応します。被害の状況に応じて多数の隊員を投入し人海戦術で救助する場合や、チェーンソーなどの器具を使用して救助する場合があります。

～早めに避難してください～

消防では、車両、人員及び装備を駆使して迅速に救助に当たっています。

しかし、車両、人員及び装備には限りがあるため、大規模災害発生時には、全ての119番通報に対して迅速に駆け付け、対応することは困難です。

災害から命を守るためには、自分の地域や身の周りの危険な場所を事前に把握して、いざという時にどのような避難行動をとればよいか日頃から考えておくことが大切です。また、台風の接近や大雨が予想される場合は、市町など自治体が発表する避難情報に注意し、早めに避難してください。

より迅速な救助が可能に　～最新装備を導入～

津波・大規模風水害対策車

水陸両用バギー等を搭載した「津波・大規模風水害対策車」を県内初の車両として令和２年８月に導入しました。

管内の災害対応だけでなく、県外で大規模災害が発生した際にも緊急消防援助隊として応援出動するために、総務省消防庁から配備された車両です。

車両には、悪路でも進入可能な「水陸両用バギー」や浸水地域で救助を求めている人のもとへいち早く駆け付けることができる「FRP ボート」等を搭載しており、津波や風水害時の人命救助に大きな力を発揮します。

【水陸両用バギー】

普通の車両では入ることができないぬかるんだ道や河川敷はもちろん、水の中にも進入できるため、道路が寸断された地域や浸水地域へ迅速に向かうことが可能になりました。

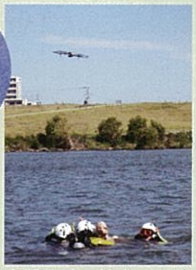
水陸両用バギーの他、ボート、浸水災害に対応するためのドライスーツ等を搭載

ドローン

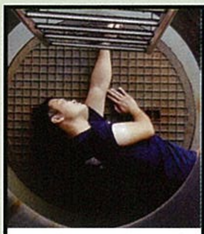
上空から、通常の映像や赤外線カメラを使って、災害現場等の状況などを確認することができるドローンを配備しました。

水の事故、山間部での行方不明者の捜索、火災や地震、浸水災害の際に上空から被害状況を把握できるようになるため、迅速に消防の活動方針を決定することができます。

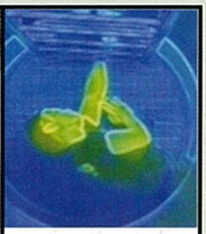
ドローン本体とコントローラー



水難救助の捜索で活躍



【通常の映像】



【赤外線カメラの映像】

人命救助の精鋭部隊　～ 高度救助隊 ～

国が定める省令で、中核市を管轄する消防本部には高度救助隊を設置することになっています。

当消防本部では、久留米消防署東出張所（久留米市山川沓形町）に高度救助隊（通称：SUPER RESCUE）を配備し、管内全域に出動しています。

高度救助隊の隊員には、選考試験を突破し、人命救助に関する専門的で高度な教育を受けた16名が任命され、毎日５名体制で災害に備えています。

高度救助隊隊長
山口　隆史

近年の災害は複雑・多様化しています。災害現場は危険な場面が多く、隊員との信頼関係がなければ、迅速な救助活動はできません。

どのような災害が発生しても対応できるよう、チームワークを大切にし、昼夜を問わず訓練に取り組んでいます。

この「オレンジ色」の救助服を見ただけで安心できると住民の皆さまに感じてもらえるよう、今後も訓練に励んでいきます。

高性能器具で救助

同隊は、画像探索機や地中音響探知機などの高度な性能を備えた器具を装備しており、大規模な地震などの災害で建物の下敷きや土砂などの中に生き埋めになった人をいち早く捜し出し、救助するための訓練を日頃から行っています。

先端にカメラとマイクが付いた画像探索機で瓦礫の中などに救助を求めている人がいないか確認

地中で発する小さな音などを聞くことができる地中音響探知機で救助を求めている人がいる場所を特定

救助隊

高度救助隊

高度救助隊の救助服は、背中が青色になっています

災害に備える ～救助隊の日々の訓練～

毎回、状況が違う災害現場。
どのような状況にも対応するため、救助隊は日々訓練を行っています。
その一部を紹介します。

知識・技術の習得

各種災害に対応するため、救助に使う器具の性能や使用方法、有毒なガスや放射線、電車等の構造などについての知識を研修で身に付けています。

また、救助に使う器具の性能を最大限発揮するため、取り扱いの訓練を繰り返し行っています。

研修も災害対応力の向上に繋がります

コンクリートを切断できるチェーンソーの取り扱い訓練

身体の鍛錬

救助に使う器具の性能、訓練で習得できる技術や知識だけでは人命を救うことはできません。救助隊員の基礎となるのは体力です。

出動の合間や休日に筋力トレーニングやランニングなどで身体を鍛錬し、体力の向上に努めています。

腕立て伏せで身体を鍛錬

隊員の連携をスムーズに

交通事故や有毒ガスの発生など、さまざまな救助現場を想定した訓練を行い、各隊員の動きを確認します。救助現場の環境や救出する人のケガの状態などに応じて救助方法を決定します。訓練後は、全隊員でミーティングを行い、活動の改善点を共有することで、隊員間の連携をスムーズにします。

有毒ガスにより倒れた人の救助を行う訓練

山の中で倒れた人の救助を行う訓練

災害をイメージする

災害現場の状況はさまざまです。どのような災害現場でも迅速に救助方法を決定できるよう、ブラインド訓練を行っています。ブラインド訓練は、訓練参加者に状況設定を知らせずに行う訓練で、隊員には自分で考えて臨機応変に行動することが求められます。

さまざまな状況の訓練を繰り返し行うことで、災害現場に到着後、迅速で的確な救助方法を柔軟に判断できるようになります。

①観覧車が動かなくなり、ゴンドラ内に人が取り残されたことを想定した訓練
②建物で倒れ、身動きができなくなった人を救助する訓練

①

②

お知らせ

(一財)自治総合センターは、宝くじの社会貢献広報事業として、宝くじの受託事業収入を財源にコミュニティ助成事業を実施しています。この宝くじの助成金で消火体験装置と煙発生装置を整備しました。女性防火クラブの訓練や防火・防災イベント等で活用しています。また、同助成金で幼年用鼓笛隊セットと幼年用消防法被を整備しました。幼年消防クラブの防火・防災イベント等で活用しています。

久留米広域消防だより vol.22
編集・発行/久留米広域消防本部
〒830-0003　久留米市東櫛原町 999-1
TEL：0942-38-5151(代表)
FAX：0942-32-4603
ウェブサイトアドレス
http://www.fire-city.kurume.fukuoka.jp/fire/
QRコード